

施策番号 4-3	施策名 観光振興プロジェクト	基本的方向	まちの観光拠点である新嵐山を活用し個性を活かした観光地域をつくる		
		基本目標	ひとが集い、誰もが安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり		
	主管課 魅力創造課	課長名	西田昌樹	内線	412
	施策関係課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果	
豊かな自然や地域のおもてなしを通じて、「芽室町の個性を体感できる場」をつくるとともに、地域資源を活用した観光まちづくりを推進し、まちのブランド力の戦略的な活用を図りながら、観光誘客を促進する		町民、観光客	・利用者数の増加 ・観光消費や物産購入につなげる				観光客の増による地域内経済の活性化及び魅力ある地域内資源の再発見による郷土愛の醸成	
重要業績評価指標(KPI)	説明	単位	策定時(基準値)	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2024年度(目標)	
① 新嵐山スカイパーク利用者数	実績数(年間)	人	488,100	281,257	273,520	304,414	513,000	
②								
③								
評価指標設定の考え方	年1%増加を目標とし、30年度から34年度までの5年間につき5%増で設定							

2. 施策の事業費

	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	111,026	109,826	117,676
人工数(業務量)	0.5176	0.5542	0.5103

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	コロナによる外出自粛モードから、ウィズコロナモードへの社会変容により、サービス業界の対応及び来客者の対応により不安が軽減したことにより、観光行動の回復が見られたため。
②2024年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	観光振興にとって、今後はかつての団体利用は見込めず、個人利用の回復は堅調ではあるが、総数として急激な回復、かつての数値達成は困難と想定される。 しかしながら、コロナ明けを見据えた対応・準備を怠らず、遂行してきたこと、これからのウィズコロナモードにおいて、その蓄積してきた知見・エネルギーが発散・実践され、回復しつつある現状値からみて、大幅なマイナスは回避できると考える。 そのために芽室町観光物産協会との連携、新嵐山のリニューアルの動きへの対応などと連動しながら日高山脈を含めた観光資源と特産品の魅力を発信し続け、誘客促進策を継続していくが、目標値達成は困難と考える。
(2) 施策の成果評価に対する第2期芽室町まち・ひと・しごと創生総合戦略の事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町観光・特産品普及事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	新嵐山スカイパーク運営支援事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	《新嵐山スカイパーク運営支援事業》 新嵐山活用計画に基づく新たなターゲット層の集客、掘り起しは効果があったとみられるが、かつての団体客による集客はコロナによる影響・スタイルの変化が大きく、目標値に向けた利用者数の増加にはつながっていない。一方で適正な価格による収益も見込み、安定した運営に向かっていると考える。 《町観光特産品普及事業》 各種事業、イベントを通じて、町の魅力としていわゆる観光のみならず、ヒトやモノも含めた魅力を創造し、発信することができた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(総合戦略策定時との比較)						
担当課 評価	想定していなかったコロナに直面し、一時期は数値目標が激減したが、その中においても歩みを止めず、試行錯誤を繰り返した結果、現状維持とまではいかないが、それに相当すると評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果				○

A: 実現した B: (総合戦略策定時と比較して) 大きく前進した C: (総合戦略策定時と比較して) 前進した
D: (総合戦略策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (総合戦略策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの5類移行に伴い、国内・海外の動きの加速、回復が想定される。 ・コロナを経験したことによる、新たな観光の形へのニーズと、受け入れ側のシフト変更が望まれる。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光振興においては、ウイズコロナにおいて国内、さらには海外の一定のニーズが期待できる。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新嵐山スカイパーク改革に関する関係機関、関係者への説明及び意見聞き取りの徹底 → 議会・町広報誌を通じた定期的な説明と、ホットボイスに対する真摯な対応、町民無作為抽出による自分ごと化 会議の実施による意見の聞き取りと、その反映を行っている。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・町民の声を反映した新たな新嵐山活用計画に基づいた施設整備、管理運営を進め、スカイパーク一帯の資源を活用した新しい魅力づくりに取り組み集客を図る。 ・芽室町の資源を活用したツアー事業の確立、実施運営者の組織化を通じて、芽室町の観光振興を図る。 ・新たな特産品創造を進め、ふるさと納税や関係・交流人口の創造などにつなげるなど、広く事業の成果向上につなげていく。 ・観光・物産の振興に関する芽室町のビジョンがないことから、ビジョン策定に取り組むとともに、新たな観光コンテンツとして日高山脈国立公園化を見据え、それらを絡めたビジョンを策定・実践していく。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	コロナ禍により成果指標が減少したが、新嵐山に関して様々な取組を行ったことから施策評価同様に「変わらない又は維持した」と評価する。	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	進捗結果			○	

A: 実現した
B: (総合戦略策定時と比較して) 大きく前進した
C: (総合戦略策定時と比較して) 前進した
D: (総合戦略策定時と比較して) 変わらない又は維持した
E: (総合戦略策定時と比較して) 後退した

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に「変わらない又は維持した」と評価する。	A	B	C	D	E
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで使っていた人からの反発を感じている。これからの進め方は今まで使っていた人を大事にしていきたい。 ・行政は新嵐山を町民の憩いの場という言い方をしているが、町内商店が追い出されて他の事業者が入るのはいかがなものか。 ・足元を見つめた政策を作るべきではないか。高齢者問題、人口減少、町内会、新嵐山にしても町民が喜ぶ姿を目指してほしい。 	進捗結果			○	

A: 実現した
B: (総合戦略策定時と比較して) 大きく前進した
C: (総合戦略策定時と比較して) 前進した
D: (総合戦略策定時と比較して) 変わらない又は維持した
E: (総合戦略策定時と比較して) 後退した